

令和 7 年度

教育委員会事務点検評価報告書
(主要施策の成果に関する報告書)

令和 8 年 9 月

岩泉町教育委員会

目 次

■ はじめに

1 趣 旨	P 4
2 点検評価の対象	P 4
3 点検評価の方法	P 4
4 点検評価結果報告の構成	P 4

■ 点検評価結果

I 学校教育の充実	P 7
取組項目 1：復興教育の推進	8
2：就学前教育の充実	9
3：学校教育の充実	10
4：健康な体を育む教育の推進	16
5：特別支援教育の充実	20
6：集合・交流学习と社会変化に対応した教育の推進	21
7：教育環境の整備及び確保	22
8：岩泉高等学校への支援	24
II 生涯学習の推進	P 30
III 文化の振興	P 40
III-1 文化財の保護と活用	P 40
III-2 芸術・文化の推進	P 44
IV スポーツ・レクリエーションの振興	P 47
<関係法令>	P 57

はじめに

1 趣 旨

教育委員会が行う事業等につきましては、これまでも「広報いわいずみ」をはじめ、あらゆる機会を捉えて町民の皆様にお知らせしておりましたが、平成 20 年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号。以下「法」という。）」に基づき、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」とされたところです。

この報告書は、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、その説明責任を果たすため、令和 7 年度において教育委員会が取り組んだ事務について、点検・評価したものを取りまとめたものです。

2 点検評価の対象

今回の点検評価は、主要事業に位置付けて実施した教育行政のうち、主な施策・事業等とし、町議会に報告した「令和 7 年度主要施策の成果に関する報告書」の中の教育委員会関連事業について対象としています。

3 点検評価の方法

- (1) 点検評価に当たっては、施策・事業の進捗状況を確認するとともに、課題等を分析し、今後の対応方向を示します。
- (2) 点検評価の客観性を確保するため、教育に関して学識経験を有する外部の方々のご意見を聴く機会を設け、様々なご意見、ご助言をいただいております。今回、ご意見をいただいた方々は、次のとおりです。

氏 名	所 属 等
馬 場 隆 太	岩手県立岩泉高等学校副校長
早 野 由紀子	元岩泉小学校 P T A 会長
林 崎 功	岩手県立岩泉高等学校 P T A 会長、元岩泉中学校 P T A 会長、社会教育団体代表者
坂 本 千鶴子	国内外研修交流事業運営委員会委員

4 点検評価結果報告の構成

(1) 点検評価の項目

点検評価の対象を 4 項目にまとめ、項目ごとに点検評価する。

ア 学校教育の充実

イ 生涯学習の推進

ウ 文化の振興

(ア) 文化財の保護と活用

(イ) 芸術・文化の推進

エ スポーツ・レクリエーションの振興

(2) 領域目標

第8次岩泉町教育振興基本計画における目標を掲載する。

(3) 現状と課題、目指す姿

第8次岩泉町教育振興基本計画における現状と課題、目指す姿を掲載する。

(4) 取組項目

項目ごとの取組概要を掲載する。

(5) 進捗状況・評価

取組概要の主な進捗状況を記載し、事務局内の自己点検と自己評価を行う。

(6) 現状値・最終目標値

第8次岩泉町教育振興基本計画における目標値に加え、令和7年度の現状値を掲載する。

(7) 主な事業実施状況

令和7年度の主な事業名と実施内容、金額を掲載する。

(8) 点検評価委員等からの主な意見

教育に関し学識経験を有する者からの意見を徴するものとする。

(9) 今後の課題と対応方向

意見を踏まえ、今後の取組を進めるうえでの課題と対応の方向を示す。

点検評価結果

I 学校教育の充実

〈領域目標〉 地域一体による子どもたちの教育の向上

1 現状と課題

学校、家庭、地域が一体となった子どもの教育環境の醸成は、深い郷土愛を持った、心身ともに健全でたくましく生きる子どもを育むことに寄与します。

各学校では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和による「生きる力」を育むことを目的とした、目標達成型の学校経営に取り組み、成果と課題の検証を進め、教育の質の向上に努めてきました。

また、学力向上の面では、学校と保護者、児童生徒が共通認識に立った「まなびフェスト」を作成して明確な達成目標を設定し、授業改善に取り組み、基礎・基本の定着による学力の向上に取り組んでいます。

なお、有芸小学校について、児童数の減少に伴う学級数の減及び教職員定数の減少に伴う学校運営上の諸課題や今後の在り方について話し合うため、保護者や地域住民と懇談会を開催しました。地域においても、子どもたちにとって望ましい教育環境とするため、令和9年4月から岩泉小学校に統合することで合意形成がなされました。

教育施設については、少子化に対応した学校の適正配置を考慮しつつ、今後も施設の安全・安心を図るため、老朽施設の大規模改造や空調・暖房設備の充実など計画的に整備していく必要があります。また、学校教育における情報教育を充実させるため、タブレット端末等のICT機器やデジタル教材の計画的な更新・整備を進め、教育環境の改善を図っていく必要があります。

町内唯一の高等学校である岩泉高校については、小さいころから慣れ親しんだ地域で学習を継続できる環境を将来にわたって維持していくために、今後も同校の魅力を高める取組に対する支援が大切です。

法改正に伴う地方教育制度改革で新たに設置された総合教育会議では、町長部局と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有するなど、より一層連携を強めながら、本町の教育振興に取り組んでいくことが重要です。

2 目指す姿

地域に開かれた教育環境のもと、学力の向上はもとより児童生徒一人ひとりの個性を重んじ、郷土を愛し心身ともに健全でたくましく、生きる力を兼ね備えた人づくりを目指します。

特に、新しい時代に対応した情報活用能力の向上に努めるとともに、少人数でも伸び伸びと活動できる教育環境づくりを目指します。

〈具現化するための取組〉

■取組項目 1：復興教育の推進

＜取組概要＞

各学校において、「いわての復興教育プログラム」に示されている考え方にに基づき、学校や地域の実情に応じた、「地域を愛し、その復興・発展を支える人材の育成」を進めるための教育活動を実践します。

進捗状況	① 総合的な学習の時間等で、東日本大震災や台風第10号災害に関連する防災学習などを取り入れ、地域住民の協力を得ながら地域への愛着・誇りが高まる指導に努めた。 ② 県の事業を活用し、スクールカウンセラー（SC）の配置と必要に応じて配置校以外への巡回訪問や、スクールソーシャルワーカー（SSW）の巡回を全校で実施し、生徒や保護者等の相談活動等を行い、悩み事などに対応する環境を確保し、心のゆとりを持たせることにつなげた。
進捗補足	◇SCの配置校 ・配置型（6校）…岩泉小学校・小川小学校・小本小学校・岩泉中学校・小川中学校・小本中学校 ・エリア型（1校）…有芸小学校
評価	① 総合的な学習の時間等を通じて、児童生徒と地域のかかわり方を学び、郷土愛を醸成し、復興・発展を支える人材育成につなげた。 ② SCやSSWによる相談活動等を通じて、複合的な課題等の解決に向けて取り組んでおり、今後も継続した支援体制の確保が必要である。

スクールカウンセラー（SC）

心理についての専門性を持ち、学校において、児童・生徒が抱える様々な課題について解決のための助言や指導を行う者。

スクールソーシャルワーカー（SSW）

問題を抱える児童・生徒を取り巻く環境へ働きかけたり、関係機関等との連携・調整を行ったりする者。

■取組項目 2：就学前教育の充実

<取組概要>

幼少期から継続した一貫性のある支援を行うため、こども園と小学校との交流や研修、情報交換により、小学校教育への円滑な移行に努めます。また、架け橋期のカリキュラムを基に、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを設定し、小学校と幼児期との円滑な学びの接続を図ります。

進捗状況	① 新入学予定児対象の説明会を実施したほか、各こども園では、就学予定児の保護者向けの説明会を各園の集会に合わせて実施した。 ② こども園、健康推進課及び教育委員会の定例協議を毎月開催した。配慮が必要と思われる就学予定児の様子を、小学校も加えて確認し、情報共有の場を構築した。 ③ 園児を対象にした運動能力向上のための運動教室のほか、小学校での外国語活動を見据えた外国語指導助手（ALT）による外国語ふれあい活動を行った。 ④ 関係機関等と連携し、気になる子どもの適切な就学に向けた相談会を実施し、必要に応じて児童相談所などの町外機関とも直接協議するなど円滑な就学を促した。また、特別な教育的支援が必要な児童生徒が在籍する学校に対し、特別支援教育支援員等を配置した。 ⑤ 架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生までの2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、こども園、小学校、健康推進課、教育委員会協同で架け橋期のカリキュラムを作成した。
評価	① 就学予定児を持つ保護者の不安や悩みの解消に努めた。今後も相談等を通じて適切な就学につなげていく必要がある。 ② 定例協議により、こども園、健康推進課及び教育委員会の情報共有が図られた。また、関係機関が情報共有することで、就学に向けた準備を整え、スムーズな学校生活につなげることができた。 ③ 運動教室や外国語ふれあい活動、遊び、生活等を通して、園児一人一人の発達に応じた幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を保護者、こども園、小学校が共有する必要がある。 ④ 関係機関等と連携することで、適切な支援の手がかりや準備を行い、就学支援に努めた。将来を見通した適切な就学につながるように、特別支援教育支援員等の適正配置など、継続した支援等のあり方を検討する必要がある。 ⑤ 架け橋期のカリキュラムを作成したことにより、関係者が町の子どもたちの育って欲しい姿について共通認識を図るとともに、環境の在り方や関わりについて共有できた。

■取組項目 3：学校教育の充実

□具現化の取組 1

地域ぐるみで子どもたちの育ちと学びを支えていく、学校運営協議会（コミュニティ・スクール：ＣＳ）や学校評議員制度の推進を図り、学校経営に保護者や地域の意見がよりよく反映される仕組みの充実など、学校・家庭・地域と協働して推進する教育に努めます。

進捗状況	① 運営協議会に保護者や地域住民が参画する機会を確保することで、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進した。 ② 委員対象の研修会として宮古地区「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムに参加し、取組事例の発表等を通じて効果的なＣＳの取組への理解を深めた。 ③ 教育振興運動を基盤とした地域学校協働活動を推進するため、学校地域間の連携と調整を担う地域連携コーディネーターを新たに配置した。
進捗補足	① ＣＳ指定校：全小中学校 ③ 地域連携コーディネーター配置人数：岩泉小２人、岩泉中２人、小川地区１人、小本地区１人
評価	① 委員の役割や制度の周知を図るとともに、保護者や地域住民が学校運営に参画する機会の確保に向けた支援を継続していく。 ② 地域と学校がより連携を取りやすい方法を構築するため、研修会を行い、ＣＳの充実・強化につなげていく。 ③ 既存の学校行事や体験学習を支援することで、学校と地域の協働活動の推進ができた。今後は支援範囲の拡充やさらなる普及啓発に努めていきたい。

□具現化の取組 2

学校が特に重視して目指すべき成果や取組について、具体的な目標を「まなびフェスト」として設定し、学校と児童生徒、家庭・地域が共有して達成に努め、児童生徒の基礎基本の定着による学力向上に努めます。

進捗状況	全学校で目標設定し、指導の明確化と家庭への協力要請を行い、取組に対する理解が得られた。
評価	各学校と家庭が協力して目標達成に向けて取り組んだ。今後においても、学校と家庭が協力し、児童生徒を育てるシステムを明確にし、取組に対するさらなる理解を深める必要がある。

□具現化の取組 3

家庭や地域との連携で、運動習慣の確立と心豊かな人間性を育む教育を推進します。

進捗状況	「まなびフェスト」に家庭や地域の協力を掲げ、家庭における「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」などの生活リズムの習慣化の環境づくりのほか、運動の大切さの指導協力や、家庭や地域でのあいさつの励行に取り組むなど豊かな心の育成に取り組んだ。
評価	各校において、「まなびフェスト」の振り返りを行い、次年度の「まなびフェスト」作成に活かしている。

□具現化の取組 4

学校・家庭・地域が一体となり、基本的生活習慣や食習慣を身に付けるために、食育や社会性の育成を図ります。

進捗状況	家庭での児童生徒の生活実態を把握するため、学年別の生活実態調査を実施した。 60(ロクマル)プラスプロジェクトを活用し、運動習慣、食習慣、生活習慣の一体的な充実を図った。
評価	生活リズムや家庭学習の習慣化の結果を分析することで実態を把握し、分析結果は、学校報等を通じて家庭への周知を図った。今後においても分析結果を踏まえて、学校と家庭が協力して、情報メディアと上手に付き合いながら、生活リズムの確立や家庭学習の習慣化を推進していく必要がある。

□具現化の取組 5

小規模・複式教育の良さを生かし、「知・徳・体」の調和を重視する教育活動を推進します。

進捗状況	① 少人数では困難な教科教材を取り上げて、日常生活に対応できる基礎学習への取組として、集合交流学习を実施した。 ② 複式指導の研修会を開催した。
評価	① 集合による交流学习を通じて、社会性の伸長が図られた。小規模・複式指導教育の良さを生かしつつ、中学校進学を見据えた集合交流学习を継続実施していく必要がある。 ② 研修会の開催で小規模複式指導の充実が図られた。今後も研修会への積極的参加を促し、さらなる充実に向けて取り組んでいく。

□具現化の取組 6

発達段階に応じた勤労観、職業観を育むための職場体験活動とキャリアパスポートによる振り返りを重視したキャリア教育を推進します。

進捗状況	① キャリア教育の取組の効果を高めるため、推進委員会では地区や年代を超えるだけでなく、受入事業所の目線を取り入れることで、より効果の高いキャリア教育を行うことができるようにした。 ② 中学2年生職場体験学習は、職場体験推進期間を設け、各学校単位で実施した。 ③ 小学校では、地域の人材を活用するなど、地域の実情に応じた栽培活動や体験活動を実施した。
評価	① 地域の関係事業所等の協力により事業の意義について理解が得られた。こども園、小・中・高の校種間連携を基にそれぞれの校種のキャリア教育のねらい、内容等の共通理解を図りながら、町の将来を担う子どもの育成につながるような取組を展開した。 ② 職業を体験することだけでなく自らの生き方について考えたり、将来の職業選択につなげたりするようなキャリア教育を実施していく必要がある。 ③ 各小学校において、地域の実情や人材活用により、栽培活動や体験活動の充実が図られた。今後も地域と協働・連携を図りながら活動に取り組んでいく。

□具現化の取組 7

教職員の教科指導力や I C T活用スキルの向上を図るため、研究及び研修活動を充実させます。

進捗状況	① 講演会、授業研究会及び教科研究等研修事業を可能な範囲で実施し、開催支援や助成などを行った。 ② 教務・研究主任等の研修、複式授業の指導力の向上と極小規模学校での指導法の改善等の研修を実施した。 ③ 県教育委員会・宮古教育事務所主催の各種研修会等へ積極的に参加した。
評価	① 可能な範囲で教職員の研修事業を実施できた。今後も指導力向上に向けた支援を継続していく必要がある。 ②～③ 研修の取組に創意工夫が見られ、教職員の資質向上につながった。学習指導・授業力向上のため、継続支援が必要である。

□具現化の取組 8

グローバル化に対応した人材を育成するため、英語教育を充実させます。

進捗状況	① 小学校高学年は、自ら英語を発信する能力を身に付けるため、学習した英語表現を活用しながら、コミュニケーションを通じた基礎的な英語力の定着を目指して取り組んだ。 ② 英語指導関連の研修会への参加奨励を行った。 ③ 幼児期から英語と触れ合うことの楽しさを学ぶため、A L Tによるこども園でのふれあい活動を実施した。
進捗補足	① 外国語指導助手（A L T）… 2 人（直接雇用 1 人、民間派遣 1 人）
評価	① 幼児期から英語に慣れ親しむ環境づくりを継続し、基礎的な英語力の定着と苦手意識克服につなげていきたい。 ② 宮古教育事務所事業の訪問指導や講師派遣事業等を通じて、教員の指導力向上と授業改善につなげていきたい。 ③ A L Tのこども園訪問を継続し、英語に触れあう機会を提供していく。

□具現化の取組 9

町教育委員会が作成した小学校社会科副読本「わたしたちの岩泉」を活用した教育活動を推進します。

進捗状況	① 岩泉の自然、地理的環境や社会的事象についての関心を高め、理解が深められるように、副読本を小学校 3 年生に配布した。 ② 児童の郷土理解を目的に、学区探検を実施した。（3・4 年生）
評価	① 地域社会の一員としての自覚を持ち、郷土への愛情と誇りをより一層深めさせることができるように活用できた。 ② 学区探検によって、社会科学学習としての成果を上げることにつながった。

□具現化の取組10

各学校での防災体制の確立と児童生徒の防災意識の向上に努めます。

進捗状況	大震災や台風第10号災害の経験を踏まえて作成した危機管理対応マニュアル等に基づき、訓練、安全指導等を行った。
評価	訓練等の実施など、危機管理対応のあり方やマニュアル等の再確認を行うことにつながった。

□具現化の取組11

学校との連携による危機対応訓練の実施などで、児童生徒の安全確保に努めます。

進捗状況	県教育委員会や危機管理課の指導の下で作成した学校における避難確保計画に基づき、有事に備えた。
評価	土砂災害警戒区域等に立地する学校は、避難確保計画により、より安全な避難の仕方や緊急時の連絡体制について再確認することができた。

□具現化の取組12

「岩泉町いじめ防止対策等のための基本的な方針」に基づき、学校や保護者、及び関係機関と連携し、いじめの未然防止や早期発見のための具体的な取組を推進します。

進捗状況	① 学期ごとにいじめ実態調査を行い、早期発見とその対応に努めた。 ② 事案が認められた場合は、状況把握と組織的対応ができるように随時情報共有を図った。 ③ いじめ解消確認の徹底を図った。																											
進捗補足	① いじめ認知件数 <table><tr><td></td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>7年度</td></tr><tr><td>小学校</td><td>16</td><td>5</td><td>116</td><td>97</td><td>66</td><td>29</td></tr><tr><td>中学校</td><td>1</td><td>12</td><td>37</td><td>15</td><td>16</td><td>9</td></tr></table> 重大事案なし								2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	小学校	16	5	116	97	66	29	中学校	1	12	37	15	16	9
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度																						
小学校	16	5	116	97	66	29																						
中学校	1	12	37	15	16	9																						
評価	① 観察・指導により、そのほとんどが解消につながっている。引き続き積極的認知を進めていく。 ② 状況把握のための個票によって、生徒指導に役立てることができた。 ③ いじめについての日常的な観察や解消確認の呼びかけを行いながら、解消に向けて行動することができた。今後もいじめを認知した際には、学校と協力し早期解消を図っていく。																											

□具現化の取組13

へき地教育支援センターによる教育活動への支援のほか、教育研究と研修の推進に努めます。

進捗状況	① 学習指導の充実を目的に、教職員が自主的に行う研修等への支援を行った。 ② 全児童生徒への調査を通じて学力や生活の実態を把握し、指導の計画と方法を改善しながら、より効果的に学習指導が行われるよう取り組んだ。 ③ 複式指導に関する充実・強化を図った。 ④ 各学校からの申請に基づき、全小学校に毛筆書写指導員を派遣したことで、文字の丁寧さ、座る姿勢及び集中する態度に良い変化が現れた。
進捗補足	② 児童生徒数 (カッコ内＝前年比) 小学校255人 (△27人)、中学校163人 (6人)、合計418人 (△21人) ③ 複式学級 小学校：3/4校 (4/5校)、中学校：0/3校 (0/3校)
評価	① 各種研修等が開催され、教職員の資質向上と学習指導力の向上が図られた。 ② 生活実態調査の結果や各種諸調査の分析を実施し、授業力向上対策委員会で課題を把握することができた。また、授業力向上対策委員会で検討した内容を各校に持ち帰り、実践することを通して、各校の授業力向上対策に資することができた。 ③ 初めて複式指導に当たる教員及び講師に対する研修支援や、複式指導の授業力向上のため、支援を継続していく。 ④ 毛筆書写指導員の派遣希望のある学校には、引き続き派遣できるように努めていく。

□具現化の取組14

「豊かな人間性や社会性を育む教育」を推進するために、道德教育や体験活動、文化芸術活動に取り組めます。

進捗状況	① 下北地区小規模・複式学校教育研究連盟の授業研究会をととして、児童生徒が自己を見つめ、多面的・多角的に考えられるよう道德教育の充実を図った。 ② 総合的な学習の時間等を活用し、郷土食の体験活動や郷土芸能等の伝承活動を行うなど、地域の将来を担う人材育成に取り組んだ。
評価	① 今後においても、授業研究の活性化や研修等をととして道德教育を推進していく。 ② 地域の体験活動、文化芸術活動を通して、郷土愛を醸成し、地域の将来を担う人材育成につなげていきたい。

□具現化の取組15

問題行動（いじめ等）や不登校などの生徒指導上の諸課題に対する組織的な未然防止、早期発見、早期対応により、生徒指導・学校不適応対策の充実を図ります。

進捗状況	① 岩泉地区生徒指導推進協議会を開催し、児童生徒の問題行動の未然防止について検討した。また、同協議会において、長期休業中のきまりを作成し、各家庭に配布した。 ② 生徒指導主事研修会を開催した。また、発達支持的生徒指導について理解を深めるとともに、各学校での実践を進めた。 ③ 不適応児童生徒等のケース会議を行い、適切な指導・支援の在り方の共通認識を図り、別室登校、家庭訪問、オンライン学習の活用など個々の状況に対応できる準備をしつつ、学びの継続を支援した。 ④ 月例報告などから抽出される対象者を注意深く観察し、悪化防止と改善策の検討を行った。
評価	① 各校の連携の下で綿密な指導と連絡体制をとった結果、大きな問題行動事案は発生しなかった。また、長期休業中のきまりを配布したことで、町内全ての学校の指導内容の統一が図られた。 ② 各学校において、児童生徒の主体性を生かした発達支持的な生徒指導が展開されてきている。 ③ ケース会議で児童生徒が置かれている状況を適切に把握・共通認識し、その後の指導に生かすことができた。今後も個々に合わせた学びの継続に向けた支援をしていく。 ④ 担任や現場の教職員だけでは解決に至らないケースも多く、医療機関や児童相談所などの町外施設との連携やSC・SSWとの連携による組織的、包括的な対応の一層の充実が求められる。

□具現化の取組16

不登校児童生徒の教育機会の確保と社会的自立の促進を図るため、家庭訪問や町民会館等を活用した相談を行うアウトリーチ型教育支援センターを設置し、継続的な相談支援体制の確保し、学校復帰に向けた取り組みを支援します。

進捗状況	① 教育委員会内にアウトリーチ型教育支援センターを配置し、ホームページに概要やチラシを掲載した。 ② 各校を定期的に訪問して児童生徒の悩みを聞きながら、必要に応じて関係機関と共有を図った。
評価	① 引き続き関係機関への普及啓発に努める。 ② 学校訪問と関係機関の共有は引き続き行いながら、家庭訪問や保護者相談等対応範囲を広げていきたい。

■取組項目 4：健康な体を育む教育の推進

□具現化の取組 1

心身ともにたくましく生き抜く力を有する児童生徒を育成するため、学校での教育活動や部活動を通じて積極的に運動に取り組むことにより、健康の保持増進、及び体位の向上に努めます。

進捗状況	望ましい食習慣及び基本的な生活習慣と関連付けながら取り組む運動習慣の形成に向けた学校等の環境づくりのため、「60プラスプロジェクト」に取り組んだ。学校・家庭における運動・スポーツの計画立案を支援する60プラスプロジェクトチャレンジカードをすべての学校に配布し、運動習慣の形成に役立てた。
評価	60プラスプロジェクトにより、運動時間が少ない児童生徒の「見える化」効果を生かし、運動やスポーツへの意欲喚起と行動変容を促すことができた。今後においても継続した運動習慣の形成につなげる取組を推進していく。

□具現化の取組 2

中学部活動の各種支援を継続するとともに、休日部活動の地域移行に向けたモデル事業を設定し、様々な諸課題の検証を行い、「部活動検討委員会」で町全体の方向性の検討・調整を行い、休日部活動の地域移行を段階的に進めます。

進捗状況	① 町外遠征や合同チーム練習のための移動支援を継続して行った。 ② 休日部活動の一部を地域移行するモデル部活動を設定し、地域移行の足掛かりを得た。 ③ 部活動検討委員会を開催し、町の現状や地域移行に向けた課題を共有し、今後の具体的な取組方針についての共通理解を図った。
評価	① 町内外の移動手段の確保を支援することで、競技力向上につながることから、今後も継続支援を行っていく。 ②、③ 継続して学校やスポーツ協会、地域と協議を進め、他の部活動の地域移行の推進や、課題の洗い出しと解決に向けた取り組みを推進する。また、継続性を保つため、補助金等の支援を検討する。

□具現化の取組 3

肥満や生活習慣病の兆候等疾患の多様化に対応するため、家庭と地域が連携した食育を推進し、学校保健や学校給食による健康教育の充実を図ります。

進捗状況	① 児童生徒への心臓、眼科、耳鼻科、歯科、内科、尿、結核及び生活習慣病予防等の健診を実施した。 ② う歯の処置を要する者の割合は小・中学校で減少、視力0.9以下の者の割合も小・中学校ともに減少。アレルギー性鼻炎の割合は、小・中学校で増加となった。 ③ 生活習慣病予防健診の総コレステロール有所見者が、小学校で減少し中学校で増加した。肥満度については小学校の高度が減少、軽度・中度が増加し、中学校では中度は増加し高度と軽度は減少となった。また、事後指導をより効果的なものとするため、予防医学協会から講師を招聘した健康教育を4校で実施し、学齢期における生活習慣病の正しい知識の普及や肥満の改善指導を行った。																																																																
	④ 食に関する指導希望調査を行い、各校の教育計画に沿った食指導に関わった。(栄養教諭による食指導 7校24回) ⑤ 家庭や地域との連携した食育の推進について、栄養教諭が各学校保健委員会に参加し、食残量調査や食生活アンケート調査、学校給食栄養摂取状況等の情報を提供した。(5校) ⑥ 豊かな食文化の理解として、地場産物を活用した郷土料理や年中行事にちなんだ献立等の提供に取り組み、郷土への理解を促す給食管理を行った。																																																																
進捗補足	①健診の有所見率 【う歯】(処置を要する者) <table><tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>7年度</td><td>14.2</td><td>7.6</td></tr><tr><td>(6年度)</td><td>16.3</td><td>8.5</td></tr></table> 【視力】(0.9以下の者) <table><tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>7年度</td><td>21.2</td><td>16.7</td></tr><tr><td>(6年度)</td><td>23.5</td><td>31.5</td></tr></table> 【アレルギー性鼻炎】 <table><tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>7年度</td><td>12.0</td><td>8.6</td></tr><tr><td>(6年度)</td><td>11.0</td><td>2.0</td></tr></table> ③生活習慣病予防健診(小学4年生と中学1年生が対象) 【総コレステロール】 <table><tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>7年度</td><td>22.7</td><td>9.1</td></tr><tr><td>(6年度)</td><td>27.0</td><td>2.1</td></tr></table> 【肥満度】 <table><tr><td></td><td colspan="3">小学校</td><td colspan="3">中学校</td></tr><tr><td></td><td>高度 (50%)</td><td>中度 (30%)</td><td>軽度 (20%)</td><td>高度 (50%)</td><td>中度 (30%)</td><td>軽度 (20%)</td></tr><tr><td>7年度</td><td>1.6</td><td>9.4</td><td>9.8</td><td>3.1</td><td>7.4</td><td>4.9</td></tr><tr><td>(6年度)</td><td>1.8</td><td>7.5</td><td>8.9</td><td>3.2</td><td>5.7</td><td>5.1</td></tr></table>		小学校	中学校	7年度	14.2	7.6	(6年度)	16.3	8.5		小学校	中学校	7年度	21.2	16.7	(6年度)	23.5	31.5		小学校	中学校	7年度	12.0	8.6	(6年度)	11.0	2.0		小学校	中学校	7年度	22.7	9.1	(6年度)	27.0	2.1		小学校			中学校				高度 (50%)	中度 (30%)	軽度 (20%)	高度 (50%)	中度 (30%)	軽度 (20%)	7年度	1.6	9.4	9.8	3.1	7.4	4.9	(6年度)	1.8	7.5	8.9	3.2	5.7	5.1
	小学校	中学校																																																															
7年度	14.2	7.6																																																															
(6年度)	16.3	8.5																																																															
	小学校	中学校																																																															
7年度	21.2	16.7																																																															
(6年度)	23.5	31.5																																																															
	小学校	中学校																																																															
7年度	12.0	8.6																																																															
(6年度)	11.0	2.0																																																															
	小学校	中学校																																																															
7年度	22.7	9.1																																																															
(6年度)	27.0	2.1																																																															
	小学校			中学校																																																													
	高度 (50%)	中度 (30%)	軽度 (20%)	高度 (50%)	中度 (30%)	軽度 (20%)																																																											
7年度	1.6	9.4	9.8	3.1	7.4	4.9																																																											
(6年度)	1.8	7.5	8.9	3.2	5.7	5.1																																																											

評 価	① 児童生徒が健診を受診することによって自身の健康状態等が把握できた。目標設定により、健康の保持増進を図る取組が必要である。 ② う歯の処置を要する者を減少させるためには、幼児期からの取組が重要である。学校においても歯科指導や医療機関の受診勧奨に向けた取組が必要である。 ③ 生活習慣病の予防には、家庭の協力が重要となり、よりよい運動習慣、望ましい食習慣及び基本的生活習慣の確立が必要である。また、「運動習慣」「食習慣」「生活習慣」を相互に関連付けた「60プラスプロジェクト」に取り組み、児童生徒一人一人のよりよい生活の確立が図られるよう、家庭と学校が連携した活動をしていく。 ④ 計画どおりに食指導を実施し、各校の教育計画に沿った食指導に関わることができた。また、一部の学校ではICTを活用した指導を行った。 ⑤ 学校、地域ごとに異なる児童生徒の健康課題を把握することができ、児童生徒の望ましい食習慣の定着を目指し、家庭や地域との連携が図られた。 ⑥ 給食献立により、児童生徒は広大な町の利を生かした郷土食や行事食などを体験した。町民には献立表や給食だよりをぴーちゃんねっと及びLINEで配信することで、伝統的な食文化の理解が図られた。
-----	---

□具現化の取組4

「岩泉町学校給食における食物アレルギー等対応マニュアル」に基づき、学校給食での事故を防止し、当該疾患を有する児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう取り組みます。

進捗状況	① 食物アレルギーのある児童生徒も出来るだけ同じような給食を食べられるよう、主治医が記入する学校生活管理指導表を踏まえ、保護者や学校関係者と協議を重ね、適切に対応した。 ② 食物アレルギー等対応の調査から対応までの流れを見直し、「学校給食におけるアレルギー等対応マニュアル」を整備した。対応に必要な調査項目や書類の様式も見直しを行った。
進捗補足	アレルギー原因食材30品目 特別食対応 除去食・代替食13人
評 価	① 関係者間で共通理解が得られたことで、適切な対応体制が取れ、給食時の安全、安心を確保することになった。 ② 食物アレルギー等対応の調査の時期や手順を明確にできたことで、スムーズに業務を進めることができた。また、対応に必要な書類の整備が早められることによって、人事異動等があっても対応内容の確認の時間が確保でき、より安全な食物アレルギー等対応を行うことができるようになった。

□具現化の取組 5

地域住民を招いた学校給食会を開催するほか、地場産食材の使用に努め、地域に開かれた学校給食を目指します。

進捗状況	保護者・地域住民を交えた試食会を実施した。
進捗補足	① 学校における試食会実施校 1校 参加人数133人（保護者・地域住民等） ② 地場食材（町内産）使用割合 重量ベース53.1%、金額ベース40.5%
評価	① 試食会では、生産者の声を聴きながら会食することで、児童生徒の地場産食材への理解を深めることができた。 ② 食育推進計画では、町内産使用目標が60%であるが、重量ベース53.1%となり昨年比で0.6ポイント減少した。猛暑などの影響で、町内農家が野菜を提供できないことが減少の要因となっている。

□具現化の取組 6

児童生徒の学校給食にかかる食材を全額公費で購入することにより栄養・質・量を満たした安全・安心な学校給食を提供するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図ります。

進捗状況	令和6年度から小中学校における学校給食費が完全無償化となった。
評価	完全無償化により保護者の負担軽減につながるとともに、学校や給食関係者の事務的負担も軽減された。

■取組項目 5：特別支援教育の充実

□具現化の取組 1

学校、医療、福祉、こども園などの関係機関との連携を密にし、対象児の把握と就学後に必要となる支援の把握、就学相談を推進します。

進捗状況	① 適切な指導及び必要な支援を行うため、特別支援教育支援員等（学校フォローアッププラン推進員・学習支援員）を7校に15人配置し、一人一人に目の行き届く教育を推進した。 ② 各校が就学支援ファイル(PASS)を積極的に活用するための支援を行った。
評価	① 宮古教育事務所のエリア型カウンセラーを講師に、支援員の役割や支援の方法について研修会を実施し共通認識が図られた。併せて支援員間で意見交換を行い、支援の関わり方等について情報交換を行うことができた。今後も研修機会を提供し、支援員の資質向上につなげていく。 ② 町内すべての小中学校でPASSを活用した。校種間の引継が円滑に進められるように取組を継続していく。

□具現化の取組 2

町の実態に応じた特別支援教育支援員等の配置、担当職員の資質・指導力の向上のほか、必要な支援体制を整えます。

進捗状況	① 小学校3校（5学級）、中学校3校（5学級）の特別支援学級を設置し、支援体制を整えた。 ② 特別支援教育担当者の資質向上を図った。
進捗補足	① 特別支援学級の設置 小学校（岩泉…知・情、小川…肢、小本…知・情） 中学校（岩泉…知・情、小川…知・情、小本…情）
評価	① 特別支援学級を設置することで、専任教員の配置による十分な指導体制を確保することができた。 ② 特別支援教育コーディネーターを対象とした研修会を開催し、関係機関との連絡・調整、保護者への対応など共通認識が図られた。今後は、組織的な指導力向上につなげる必要がある。

□具現化の取組 3

幼児期の療育相談から就学に向けた教育相談への円滑な接続に努めます。

進捗状況	① 療育センター並びに各こども園及び健康推進課と協議し、相談実績等の情報共有を行った。 ② 療育相談を通して、翌年度就学児の保護者を対象に教育相談を行った。
評価	① 関係機関との相談内容や就学に向けた情報共有をすることで、適切な就学につなげていく。 ② 教育相談及び学校訪問を通じて、保護者の就学に向けた不安解消に努めた。今後も子どもの成長を見据えた保護者との療育相談や学校との情報共有を図りながら、適切な就学支援を継続していく必要がある。

■取組項目6：集合・交流学习と社会変化に対応した教育の推進

□具現化の取組1

協働的な学びを推進するため、学校間の集合・交流学习を促進します。特に、小規模校同士や小規模校と町中心部の学校間での交流を積極的に行い、新たな人間関係の形成と自己表現の機会の提供に努めます。

進捗状況	2校交流学习を岩泉小学校、有芸小学校で実施し、小中連携学習による学習の充実を図った。また、宿泊学習や連合音楽会などの行事を合同で実施した。
評価	2校交流学习により、学習課題への取組と相互交流を行うことができた。小中連携学習により、中学校進学時のギャップの軽減につながっている。

□具現化の取組2

児童生徒の情操を育てるため、読書や芸術教育の活動を支援します。

進捗状況	各学校で特色ある読書活動を行い、児童生徒の読書意欲の向上を図った。
評価	生活実態調査（読書意欲）で、1日の読書時間が小学生10分未満、中学生10分から30分までの間の割合が高いことから、今後も意欲喚起を促す取組が必要である。

□具現化の取組3

国際理解や環境、及び情報教育を推進し、社会の変化に対応した教育を推進します。

進捗状況	① 国際理解教育は、ALT2人体制により指導体制を強化した。 ② 情報機器の適切な使用方法について、家庭教育学級等を通して周知した。
評価	① 毎週の定期訪問に加え、学校の要望に応じて訪問できる体制を確保し、指導の充実を図った。 ② 情報機器との上手な付き合い方を実践するとともに、情報モラル教育にも取り組んでいく必要がある。

□具現化の取組4

先人が築いた文化や生活の知恵などを学ぶ「地元学」を推進します。

進捗状況	総合的な学習の時間において、地域の産業、食文化、郷土芸能等、地域住民から協力を得ながら学ぶことにより、地域への愛着・誇りが高まるような指導に努めた。
評価	地域住民との交流などから、地元の特色や体験に触れ、地域への愛着度が高まった。

□具現化の取組5

子どもたちの学習支援のため、夏休み・冬休み応援団事業の見直しを進めます。

進捗状況	学習支援事業について、日程の調整がつかず実施ができなかった。
評価	岩手大学等の関係機関と連携し、短期間の学校現場における学習支援事業にオンラインを組み合わせ、大学の地域教育実習と一体化するなどによる基礎基本の定着を図り、確かな学力の向上を目指す事業への改善が必要である。

■取組項目 7：教育環境の整備及び確保

□具現化の取組 1

学校施設の長寿命化計画（個別施設計画）に基づく施設毎の整備内容や時期、費用等に関する中長期的な見通しを示します。

進捗状況	児童生徒数の推移を勘案し、各学校において必要な工事や修繕等を実施した。 令和 6 年度の防火設備定期検査において、岩泉小学校の防火扉に不具合箇所が確認されたことから、対象箇所の改修工事を施工した。
評価	町内ほとんどの学校が建築後30年以上を経過していることから、緊急的な対応が多くなっている。専門的見地を踏まえた、対応が重要である。

□具現化の取組 2

老朽化した教員住宅の計画的なリフォームを行うとともに、入居の見込みのない教員住宅については、教職員以外への用途変更を行うなど、学校及び地域の活性化に貢献するとともに教員住宅の有効活用を図ります。

進捗状況	①老朽化が顕著な教員住宅施設の岩泉中学校教員住宅 1 戸について、床のフローリング化、クロスの張替え、ユニットバス化など内装を中心としたリフォーム工事を施工し、居住環境の改善を図った。 ②老朽化が著しく、利用も見込まれない教員住宅 2 戸の解体工事を実施した。 ③旧校舎利活用関係企業の職員や地域おこし協力隊の住宅として活用するため、空き家となっている大川・釜津田地区の教員住宅 9 棟14戸を政策推進課所管とし、有休財産の有効活用を図ることとした。
評価	教員住宅は、建築後25年以上経過の施設が大半であるが、老朽化対策の工事を施工したことで今後の活用が継続できる。また、定期的な改修、利活用目的の明確化と分類を進めることが重要である。一方では、老朽化が著しく、利用も見込まれない施設について、周囲に悪影響を及ぼすことが見込まれることから、計画的な解体を行うことも重要である。

□具現化の取組 3

老朽化している学校給食共同調理場の設備更新や施設整備改築計画の推進に努めます。

進捗状況	① ガススチームコンベクションオーブンを更新した。
評価	① 経年劣化が進んだ備品を学校休業期間に更新することができた。 ② 施設整備については、将来の地域事情を想定し、慎重な方向付けが必要である。

□具現化の取組 4

統廃合校舎等施設の管理については、管理作業員の巡回を継続するほか、条件の整う施設については統廃合校舎の管理作業委託に取り組みます。

進捗状況	統廃合の旧校舎10か所について、5か所は会計年度任用職員2人体制で草刈りや清掃等の作業を行い、景観美化と適正な維持管理に努めた。また、残る5か所では、地元組織への業務委託により、総体的に維持管理の作業を実施した。
評価	会計年度任用職員による維持管理は、細部まで行き届いた作業を目指しているが、旧校舎数の増加により対応に苦慮している。業務委託の対象を増やすため、地元組織との情報交換や活用提案を継続していく。 旧校舎については、町のホームページや文部科学省の「みんなの廃校プロジェクト」等の活用により、広く利用希望を募集、維持管理と併せ、利活用の推進に務める。

□具現化の取組 5

統廃合校舎を含め、学校備品などの整理・分別を進めます。

進捗状況	令和6年度末に閉校した旧釜津田小学校の備品や教材、その他物品の利活用のため希望に応じた所管替えを実施した。今後も同様に継続していく予定である。また、随時不要な物品等の廃棄処分を実施した。
評価	今後においても、所有物品の状態を把握し、的確に情報発信することで、既存物品についても段階的に移管を進めていく。使用可能な物品が広い範囲に情報伝達され、利活用が図られることが望まれる。

□具現化の取組 6

教職員の働き方改革を見据えた業務の効率化と負担軽減を図るため、統合型校務支援システムの活用を進めます。

進捗状況	① 校務支援システムの利用方針を学校に説明することで、システム利用の普及啓発に努めた。 ② システムの利用方法を学校と一緒に確認することで、システムの利用を促進した。
評価	学校と教育委員会が協同でシステムを利用することで、互いに理解を深め、効率化と負担軽減を図ることができた。引き続き研修の案内や学校サポートを行っていく。

□具現化の取組 7

学校給食費の無償化により教職員の給食費徴収業務の負担軽減を図ります。

進捗状況	小中学校の児童生徒にかかる給食費が無償になったことに伴い、各学級における給食費徴収業務について負担軽減が図られた。
評価	学校業務の多様化が進む近年において、負担軽減は重要な業務改善であり、今後の継続が望ましいとともに、更なる軽減のチャンスを注視していきたい。

■取組項目 8：岩泉高等学校への支援

□具現化の取組 1

魅力や特色のある学校運営を支援し、生徒の確保に取り組めます。

進捗状況	町内中学校・田野畑中学校の校長と岩泉高等学校の校長、副校長が集まり、「中高連絡会」を実施した。岩泉高校への進学状況や学校生活の様子、今後の展開について情報交換し、連携を図ることができた。
評価	高校存続のため、引き続き情報交換と連携継続を図ることが重要である。また、学校の様子を各中学校の先生方に知ってもらい、進路指導に役立てることができた。

□具現化の取組 2

生徒の夢や希望を叶えるため、ドリームサポート事業を実施します。

進捗状況	本町の姉妹都市である米国ウィスコンシン州デルズ市への派遣事業は、事故なく1月4日から同月16日までの期間（約13日間）において実施した。
評価	デルズ市との相互交流を滞りなく実施することができ、8人の生徒を派遣した。今後も岩泉高校の魅力の一つである英語圏への派遣の機会を確保していく。今後、隔年実施となるウィスコンシン州デルズ市との相互交流による当該事業の全体的な事業の組み立てについて再定義する必要がある。

□具現化の取組 3

生徒の通学や寮費支援のほか、国公立大学などへの進学支援を実施します。

進捗状況	① 町内唯一の県立高等学校として通学費、振興費、寮費等の支援を行った。 ② 大学進学支援補助では、一定基準を満たした私立大学も対象としている。 ③ 魅力向上のための交流拡大と生徒数確保を目的に、町外からの志願者に対するPR活動として、近隣市町村の中学校への訪問説明を拡充した。
評価	① 通学費補助等を継続し、魅力ある学校づくりのための支援を行った。 ② 大学進学支援新規決定者は、国公立大学7人となり、魅力ある学校づくりに貢献した。 ③ 町外出身生徒数が20人に拡大し、6.8ポイント増加した。

□具現化の取組 4

学校給食の提供により、高等学校の魅力向上の取組を支援します。〔カッコ内：6年度数値〕

進捗状況	生徒給食数 111食（95.7%）149日。〔生徒給食数115食（99.1%）、159日〕
評価	生徒の給食利用率は95.7%で、前年度から3.4ポイントの減少である。

□具現化の取組 5

生徒数確保と魅力向上のため新入学生の県外募集を支援します。

進捗状況	交流拡大を目的に、県外からの入学生を受け入れるため、「いわて留学事業」に登録をして、地域みらい留学プラットフォームを活用しPRと募集活動を行った。 ① 高校進学フェス（東京）に2回参加し、合計39組へ対面説明を行った。 ② 岩泉町おためし地域留学（1泊2日）参加者5人の対応を行った。
評価	県外からの志願者はゼロであったが、ノウハウが身に付き次年度に生かせる基礎を築けた。

〈第8次岩泉町教育振興基本計画の令和7年度現状値及び最終目標値〉

【児童生徒の学力向上等】

指 標		単位	現状値 (R 7)	目標値 (R 4)	目標値 (R 7)
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小学6年生	%	93.4	95.0	98.0
	中学3年生	%	72.0	74.0	75.0
自分の住む地域が好きだと思っている児童生徒の割合	小学5年生	%	100.0	100.0	100.0
	中学2年生	%	89.0	90.0	90.0
意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	小学6年生	%	93.4	95.0	98.0
	中学3年生	%	86.0	90.0	90.0
学校の授業が分かる児童生徒の割合	小学5年生	%	89.0	95.0	95.0
	中学2年生	%	83.0	86.0	90.0
学校が楽しいと思う(学校に満足している)児童生徒の割合	小学5年生	%	100.0	95.0	95.0
	中学2年生	%	87.0	90.0	90.0
いじめはいけないと思う児童生徒の割合	小学6年生	%	100.0	100.0	100.0
	中学3年生	%	98.0	100.0	100.0
自己肯定感をもち児童生徒の割合	小学6年生	%	88.9	85.0	85.0
	中学3年生	%	82.0	85.0	85.0
中学3年生において求められている英語力を有している生徒の割合	中学3年生	%	25.5	42.0	50.0
体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	小学5年生 男	%	75.0	60.0	74.0
	小学5年生 女	%	83.3	83.0	83.0
	中学2年生 男	%	76.9	90.0	90.0
	中学2年生 女	%	78.6	95.0	95.0
「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合	小学校	%	77.2	85.0	85.0
	中学校	%	81.7	87.0	87.0

〔学校教育に係る主な事業実施状況〕

事業名	事業 実施区分	令和 7 年度		令和 6 年度	
		事業実施量	金額 (千 円)	事業実施量	金額 (千 円)
小学校整備事業	教材教具等整備	一般教材備品	325	一般教材備品	538
	施設整備	岩泉小学校防火扉改修工事ほか	14,631	岩泉小学校高圧受電設備機器等更新工事ほか	10,048
中学校整備事業	教材教具等整備	一般教材備品	180	一般教材備品	1,247
	施設整備	小川中学校救助袋更新工事ほか	4,574	小川中学校屋内消防設備(電気)改修工事ほか	6,952
岩泉高等学校支援事業	通学費補助金	通学費補助 36人	19,209	通学費補助 55人	19,516
	寮費等補助金	寮費等補助 25人	6,600	寮費等補助 17人	3,631
	振興事業費補助金	健全育成事業(部活動振興) 教育振興事業(学力向上、進路指導、人材育成)	6,503	健全育成事業(部活動振興) 教育振興事業(学力向上、進路指導、人材育成)	6,277
	大学進学支援補助金	入学金補助 7人 授業料補助 13人	3,019	入学金補助 5人 授業料補助 22人	6,183
	ドリームサポート事業補助金	ウィスコンシン州デルズ市国外交流派遣 8人	5,163	オーストラリア国外交流派遣 7人	2,919
教育費支援事業	町奨学資金貸付事業	大学14人 9,840千円 専門 6人 4,320千円 高専 0人 0千円 高校 5人 1,200千円	15,360	大学10人 8,160千円 専門 6人 4,320千円 高専 0人 0千円 高校 6人 1,440千円	13,920
教員住宅管理事業	教員住宅リフォーム工事	岩泉中学校 計1校1戸	2,907	岩泉小学校 計1校3戸	4,044
コミュニティ・スクール推進事業	地域連携コーディネーター	地域連携コーディネーター報償費 6人	693	—	—
給食センター整備事業	給食センター物品整備事業	ガススチームコンベクションオーブン 1台	6,600	食器洗浄機 1台	5,445

〈点検評価委員等からの主な意見〉

- (1) あいさつの取組について、児童、生徒からの自発的なあいさつは少ないと感じている。
- (2) 中学生の職場体験について、不登校の生徒への対応はどのようにしているか。
- (3) 共働き世帯が増加しており、部活動等の夜練習の際、夕食の確保が難しいと聞いている。平日に子ども食堂を営業できないものか。
- (4) 児童生徒自身や保護者が、健康への危機意識を持てるように、健康診断の結果を基に、各学校で適切な指導をしてほしい。
- (5) 地域連携コーディネーターについて、とても良い制度だと思っている。もっと地域の人を巻き込んだ活動をしてほしい。
- (6) 小規模複式教育について、「小規模ならではの良さ」とはどういったものか。
- (7) 子どもが町外の大きい学校に進学したことで、岩泉町の小規模クラスの在り方、環境の良さを感じた。一人ひとりの個性を生かす教育環境の継続を望む。
- (8) 部活動を理由に区域外就学をしている生徒はいるか。
- (9) 部活動の合同チームを組む事例は、今後も出てくると思われる。学校だけでは対応が難しい部分もあると思われるので、しっかりケアしてほしい。
- (10) 野生動物（クマ・イノシシ等）への対応マニュアルはあるか。
- (11) 地域住民を対象とした給食試食会1校のみとのことだが、もっと多くの学校に実施してもらった方が良くと思うが、開催数が少なかった理由があるか。
- (12) 岩泉高等学校の中野七頭舞の全国大会出場は素晴らしい。継続して結果を残していることがすごいと思っている。いわて留学について、寮の土日対応に関する課題は解決したか。
- (13) 中学3年生の英語力について、目標の半分程度となっている理由は。
- (14) 教員住宅について、一般への貸付も進められており、有効活用していると感じている。旧校舎の備品についても、住宅と同様に一般への譲渡などができないか。

〈今後の課題と対応方向〉

- (1) 学校を通じて、指導していく。
- (2) 教育支援センターの相談員が不登校生徒のケアをしている。将来のことについても生徒本人や学校と相談しながら対応している。不登校の生徒が町内の学校に職場体験をしたケースもある。相談員が生徒本人の意思を聞き取りながら、個別に寄り添った対応をしている。
- (3) 事業実施者と意見交換のうえ対応を検討する。
- (4) 各種健診結果は学校に通知しているが、その後の健康指導については学校毎の裁量に任せている。委員からいただいた意見をもとに、健康指導に関して改めて学校に対して周知する。
- (5) 令和7年度は小川地区で、お茶っこ広場で思い出を語る会を実施した事例がある。昨年度からの事業のため今後研究、検討していく。

地域連携コーディネーターは、学校からの要請で活動している。学校ごとの個別の事情もあるため、教育委員会が踏み込みすぎるのは好ましくない。各学校の意見を聞

き、徐々に調整しながら取り組んで行きたい。

- (6) 人数が少ないがゆえに、一人ひとりに目が行き届くという強みがある。
- (7) 引き続き、良好な教育環境の充実に努める。
- (8) 昨年度、部活動を理由に学区外、区域外に進学した生徒はいなかった。
- (9) 学校や保護者の意見等を聞き、取り組んでいく。
- (10) 野生動物への対応マニュアルについては、既に対応している市町村を参考に現在、作成中である。
- (11) 地域住民を対象とした試食会については、学校から要請が1件のみであった。保護者を対象とした試食会は何度か実施している。
- (12) いわて留学での入学者の寮は、ホテル龍泉洞愛山の部屋をお借りする予定で調整している。
- (13) 英検3級以上を取得した生徒が全体の4分の1程度であったため、25.5%という数値となった。実用的な英語力の観点から、英語は他教科と条件が異なり、英語検定3級以上の取得者数を参照している。通常の学力テストなどの結果は良好である。
- (14) 閉校当時、各学校に希望を取り、必要なものは譲渡した。現在、ネットオークションによる一般への販売などを検討している。

Ⅱ 生涯学習の推進

〈領域目標〉 生涯を通じた学びの環境づくり

1 現状と課題

スポーツや芸術・文化活動をはじめ、子どもから大人まで、趣味や生きがい、キャリアアップのための学習など、自らの充実や生活の向上のために、自分が学びたい内容を生涯にわたり学習していく環境を整えることが重要です。

町民の多様化する生涯学習の関心に応えるため、NPOや関係団体と連携し、幅広い情報提供と小学生から高齢者までを対象とした事業、地域支援事業などによって各世代への多様な学習機会の提供を進めていくことが必要です。また、SNSの普及により様々な学習機会の情報を入手しやすい環境になりつつありますが、引き続き学習の場への参加意欲の向上に努める必要があります。

コミュニティ活動を推進する花いっぱい運動は、地域の方との貴重な交流の場となっていますが、人口減少や高齢化により、花いっぱい運動に取り組む団体は減少傾向にあります。

町立図書館については、利用者数もコロナ禍後徐々に増加傾向にあり、今後も充実したサービスの提供を継続するとともに、蔵書の充実、町民の生涯学習、情報発信、本に親しむ場の提供、交流の拠点としてさらに利用を促進していく必要があります。また、図書館に足を運んでくれるきっかけ作りが重要となっています。

教育振興運動は、コミュニティ・スクールとの一体化を図りながら、子どもたちの健全育成に努めていく必要があります。

豊かな人間性や社会性を備え、広い視野を持った人材を養成していくうえで、地域間交流や国際交流が果たす役割は大きいものがあり、国内外研修交流事業は、町の将来を担う“ひとづくり”に重点を置いた取組であることから、広く応募できる環境づくりを進め、多くの生徒が広い視野を持つ経験を得られることが重要です。

交流先とも調整を図りながら、交流を継続し今後も町の将来を担う”ひとづくり”に重点を置いた取組を進めていくことが重要です。

2 目指す姿

生涯各時期を通じて、多種多様な学習機会を提供し、町民自らの人生の充実や生活の向上が図られ、豊かな人間性を育むことを目指します。

〈具現化するための取組〉

■取組項目 1：生涯学習の推進

□具現化の取組 1

生涯学習推進本部会議など、推進体制の充実を図ります。

進捗状況	本部会議を開催し、各課等での実施状況を報告するとともに新年度計画を協議した。
評価	次年度事業の方針及び推進体制の確認ができ、また、町民の学習の場となる事業や情報発信の重要性について共通認識することができた。

□具現化の取組 2

学習意識の啓発や学習機会の提供、学習成果の活用を図ります。

進捗状況	① 学習機会の場を情報提供するため、SNS等を活用した。 ② 生涯学習カレンダー（4,500部）及びNPO法人ぱあとなあで発行する各種情報紙、さらには「ぴーちゃんねっと」で、生涯学習情報の提供に努めた。
評価	① SNSの活用により、広く町民に周知することができた。 ② 生涯学習カレンダーでは、町民が参加できる行事等の情報を掲載し、学習機会の情報提供と機運醸成が図られた。

□具現化の取組 3

自主学習グループの支援と活用に努めます。

進捗状況	生涯学習講座を契機とした自主学習グループ設立に向け働きかけを行った。
評価	徐々に活動が活発化してきているが、団体の設立までには至らなかった。

□具現化の取組 4

NPO法人やボランティア団体などの育成・連携に努めます。

進捗状況	① NPO法人ぱあとなあと定期的に協議を実施した。（月1回） ② 各種研修会の情報提供を行い、人材育成に努めた。
評価	① 各種情報共有及び情報交換等が図られたことにより、事業連携もスムーズに進められた。 ② NPO法人ぱあとなあの新採用職員等、団体育成や人材育成への支援を継続して行う必要がある。

■取組項目 2：家庭教育の充実

□具現化の取組 1

情報誌の発行や家庭教育学級の開設など、学習情報の提供・学習機会の充実を図ります。

進捗状況	① 各小中学校やこども園等、10学級の開設が図られた。 ② 講座の開設数が15講座となった。
評価	① 各学級において、可能な限りの講座開設を行い、家庭教育の振興に寄与できた。 ② 各学級において、特色ある内容の講座を実施できた。

□具現化の取組 2

家庭と連携して、教育振興運動の成果と課題を踏まえた家庭教育の充実に努めます。

進捗状況	家庭教育学級の講座に、教育振興運動の共通課題である情報メディアとの上手な付き合い方に沿った内容を取り入れて取り組んだ。
評価	情報メディアとの上手な付き合い方に関する教育が家庭に浸透しつつあるが、さらなる取組が必要である。

■取組項目 3：学習活動の支援

□具現化の取組 1

地域の人材を生かしたふるさと少年隊やスポーツ少年団活動、読書マラソンなど、少年活動を支援します。

[カッコ内：6年度数値]

進捗状況	① ふるさと少年隊活動では、計画通り4回の事業が実施できた。 ② ジュニアリーダー(中学生)の参加が少なくなった。 ③ ボランティアとして高校生の参加が増加している。
進捗補足	① ふるさと少年隊 延べ144人 [延べ279人]
評価	① 合同宿泊や山での活動もでき、子どもたちに自然体験の場を提供できた。 ② ジュニアリーダーのみならず岩泉高校生ボランティアも多数参加し、充実した活動になってきている。 ③ 回数と対象学年を見直して、事務局の体制が安全に対応できる状態で事業を実施できた。

□具現化の取組2

友好都市の東京都昭島市との相互交流のほか、多種多様な交流のための機会づくりを進めます。

進捗状況	① 国内交流事業では、昭島市との交流人員を元に戻し相互交流を実施することができた。 ② 交流事業では、今年も合同宿泊で実施した。
評価	① 相互交流で実際に見聞することにより、お互いの市町を再認識することができた。 ② 事業参加により、町内の普段会うことのない児童が事業を通じて友達を多く作ることができた。申込み人数も多くなっており、交流事業が浸透しつつある。

□具現化の取組 3

子ども会活動を支援するジュニアリーダーの育成やスポーツ少年団などの活動を充実するため、指導者育成を支援します。

進捗状況	ふるさと少年隊活動を通じて、中学生等のリーダー意識の醸成を図った。
評価	中高生は活動を通じて、小学生をリードするなどリーダーの自覚が芽生えるなど意識の醸成が図られた。

□具現化の取組 4

自主学習グループ活動支援、学びの出前講座、並びに青年層の講座や高齢者学級の開設など、成人教育・高齢者教育を進めます。

[カッコ内: 6 年度数値]

進捗状況	① 出前講座では、応急手当や防災に関する講座への申込みが多く見られた。 ② 高齢者学級は、全地区対象の合同学級のほか要望のある地区で開催した。 ③ 青年を対象とした講座は、対象となる青年の申し込みが少ないため、年代を問わない講座として開催した。
進捗補足	① 学びの出前講座 53講座1,067人 [64講座1,148人] ② 高齢者学級 延べ155人 [延べ343人]
評価	① 昨年度より講座回数が減少したが、町民のニーズに応えることができた。 ② 高齢者学級は合同学級のほかに要望のある地区への対応を行い、地区学級が多くなってきている。 ③ 年代を問わない講座にも、若者の参加が見られた。

■取組項目 4 : 社会教育施設の整備と推進体制の充実

□具現化の取組 1

施設の適切な管理及び整備に努めます。

[カッコ内: 6 年度数値]

進捗状況	① 町民会館と図書館は指定管理者に管理委託し、適正な管理を行った。 ② 駐車場安全確保のため、駐車場区画線設置工事を行った。
進捗補足	① 指定管理料: 41,187千円 [40,299千円] 図書館利用: 5,622人、48,878冊 [6,357人、52,769冊] 町民会館利用: 42,633人 [43,172人]
評価	① 利用者のサービス向上に努めているが、見直しを図りながら町民の目線に立った施設の良好な管理が必要である。 ② 工事により、駐車場の安全確保が図られた。

□具現化の取組 2

事業実施のため、学校教育・社会教育関係者との連携に努めます。

進捗状況	① 各学校と連携し、町民会館を活用した青少年劇場などの事業を展開した。 ② 校長会議で情報を事前周知するとともに、事業実施のための事前打ち合わせを徹底した。
評価	連携を密にしたことにより、スムーズな事業運営ができた。

□具現化の取組 3

事業実施に必要な組織体制の整備・充実・強化に努めます。

進捗状況	施設運営の在り方を担う、町民会館やB & G海洋センターの運営協議会を兼務する社会教育委員会議を開催した。
評価	町民会館等に関する施設状況把握をするとともに有効活用が図られた。

■取組項目 5：町立図書館の機能充実

□具現化の取組 1

町民の学習活動の拠点として、機能の充実とサービス向上に努めます。

進捗状況	① 通常の図書館車運行に加えて、町内中心地の特別巡回や要望にも対応した。
進捗補足	◇ かもしか号巡回 23か所、11回、4,389冊 [24か所、11回、5,217冊]
評価	① イベント会場にも巡回し、図書の紹介が図られた。 ② 特別巡回等により図書利用の機会の増加が図られた。

□具現化の取組 2

指定管理者と連携を図るとともに、担当者の各種研修会への参加によって職員体制の充実と資質向上を図ります。

進捗状況	資質向上のために町外などへの各種研修会に参加した。
評価	研修会などで資質向上を図ることができた。また、他館の情報共有を図ることができた。

□具現化の取組 3

図書・資料の充実を図るとともに、図書館分室・地域文庫の利用促進等を推進します。

[カッコ内：6年度数値]

進捗状況	① 定期的に分館等の図書入れ替えを行った。 ② 県立図書館からの本の借り入れを2回行った。
進捗補足	◇ 図書購入：1,117冊、1,934千円 [1,184冊、1,934千円]
評価	① 分館の図書入れ替えにより、新しい本に触れ合う環境づくりがなされた。 ② 当館に所蔵していないニーズに合いそうな本を補充することができ、読書環境が充実されつつある。

□具現化の取組 4

読書活動の普及・啓発活動によって、各種事業を推進します。 [カッコ内: 6 年度数値]

進捗状況	① 引き続きおはなし会を午前開催とすることで、安定した参加者数となった。 ② 継続して読書マラソンを実施した。
評価	① 親子での参加が多く、午前に変更したことにより参加者数も安定してきており、改善が図られた。 ② 参加申込者数411人 [463人] と読書に親しむ機会の提供が図られた。

□具現化の取組 5

各種研修会の開催などによって、読書グループやボランティア団体等の育成と支援に努めます。

進捗状況	① 研修会などの情報について読書ボランティアへ呼びかけを行った。 ② おはなし会では、高校生や一般のボランティアによる読み聞かせ等も行った。
評価	事業に参加することにより、読み聞かせの楽しさなども実感でき、一般のボランティアが増加した。

□具現化の取組 6

幼児期の本に親しむ機会拡充に努めます。

進捗状況	ブックスタート事業を展開し、乳幼児健診時に本の贈呈及び読み聞かせを実施した。
評価	本を贈呈した親子が、図書館に来館し始めたことから、一定の効果があったと思われる。

■取組項目 6：男女共同参画社会の推進

<取組概要>

男女共同参画推進プランに基づき、防災活動や多文化共生などへの理解を推進する事業を展開します。また、プラン改訂を進めます。

啓蒙・啓発を図るほか、各種取組と連携した事業などを推進します。

[カッコ内: 6 年度数値]

進捗状況	県主催のサポーター養成講座の周知をした。
進捗補足	サポーター養成受講者 0 人 [0 人]
評価	① 動画配信によるリモートでの講座を周知したが、残念ながら受講者はいなかった。 ② 関係各所も含めながら、男女共同参画の在り方を見なおす必要がある。

■取組項目 7：コミュニティ活動の推進

□具現化の取組 1

郷土に対する理解と地域振興を考える学習機会を提供します。

進捗状況	環境講座を通じて、地域の理解と外来植物の駆除活動共同作業を実施した。
評価	実際の行動として地域を守る活動を実践した。

□具現化の取組 2

環境美化とコミュニティ活動を推進するため、「花いっぱい運動」を展開します。

進捗状況	① 各地区地域振興協議会と連携し自治会等に花苗を配布した。 ② コンクールを実施して、運動を盛り上げた。
評価	① 審査会まで長持ちする品種を替えて、環境美化の継続を図った。 ② 高齢化等により運動に参加しない自治会等も見られ、今後の花いっぱい運動の継続が懸念される。

□具現化の取組 3

地域づくり活動に係る取組の支援に努めます。

進捗状況	地域振興協議会事業と連携し事業を推進した。
評価	地域づくりに関する事業と協働で進めることができた。

□具現化の取組 4

地域コミュニティ活動の活性化を図り、併せて活動団体の育成・支援に努めます。

[カッコ内：6年度数値]

進捗状況	花いっぱい運動を中心に、地域コミュニティ活動を支援した。
進捗補足	花苗配布：72団体 [77団体]、コンクール参加：77団体 [78団体]
評価	① 継続した取組により、地域の連帯感向上を図ることができた。 ② 自治会等の高齢化により、花壇の維持管理に苦慮し、運動に参加しない団体が出ている。

■取組項目 8：教育振興運動の推進

□具現化の取組 1

教育振興運動の推進体制の充実を図ります。

進捗状況	コミュニティ・スクールとの組織一体化を行った。
評価	① 組織一体化によりコミュニティ・スクールとの協働体制を確立した。 ② 推進委員会において、今後の方針について確認した。

□具現化の取組 2

教育振興運動の啓蒙・啓発に努めます。

進捗状況	「岩泉の子どもと地域の未来を考える集い」を、PTA連合会や学校保健会等と協働で行った。
評価	① 教育に関する様々な集会などを一つにすることで、関係者の負担軽減につながった。 ② 一つの集会で、教育振興運動をはじめ、いろいろな情報を提供することができた。

□具現化の取組 3

教育振興運動の実践活動の拡充を図ります。

進捗状況	各実践区の実践活動を支援するために 6 実践区への補助金交付を行った。
評価	各実践区の活動を停滞させることなく支援することができた。

■取組項目 9：国際交流活動の推進

□具現化の取組 1

異文化に触れる機会の創出によって国際理解を深め、地域の新たな価値創造や課題解決に取り組み、町に貢献できるグローバル人材の育成に努めます。

進捗状況	① 国外研修交流事業を実施した。 ② 図書館において、交流事業の写真展示を行った。
評価	① 生の英語に触れるとともに実際に見聞したことは、今後の人生に大きく影響するものであり、人材育成に寄与した。 ② 展示を通じて、異文化の様子を少しでも町民に発信することができた。

□具現化の取組 2

姉妹都市の米国ウィスコンシン州デルズ市や台湾嘉義県との交流、海外研修生の受け入れなど、国外都市との交流活動を推進します。

進捗状況	① 台湾嘉義県への中学生派遣事業を実施した。 ② 米国ウィスコンシン州デルズ市への高校生派遣及び受入れ事業を、2年ぶりに実施した。
評価	① 中学生派遣事業の実施により、現地での中高大学生との交流や異文化に触れる機会を提供できた。 ② デルズ市との交流について、派遣及び受入れ事業とも実施でき、異文化に触れる機会を提供できた。

■取組項目 10：地域間交流の推進

□具現化の取組 1

国内交流活動の推進を図ります。

進捗状況	昭島市との交流を継続して行った。
評価	小学生の交流事業が大人の交流にもつながり、各種分野で広がりつつある。

□具現化の取組 2

交流により、人材の育成に努めます。

進捗状況	小学生の昭島市への国内研修交流事業を実施した。
評価	お互いの自治体の違いや文化などを知るいい機会となった。

〈第8次岩泉町教育振興基本計画の令和7年度現状値及び最終目標値〉

【各種学習講座・学級受講者数等】

指 標	単位	現状値 (R 7)	目標値 (R 4)	目標値 (R 7)
各種学習講座・学級受講者数	人	2,693	4,500	4,500
図書館利用者数	人	5,622	10,000	10,000
国内交流参加児童数（累積数）	人	866	854	900
国外交流参加生徒数（累積数）	人	403	412	460

〈点検評価委員等からの主な意見〉

(15) 岩泉の子どもと地域の未来を考える集いへの参加者が少なかったため、寂しい雰囲気であった。参加人数を増やすことはできないか。

〈今後の課題と対応方向〉

(15) 以前はPTAに参加要請していたが、学校から負担が大きいという話が出たため、廃止した。広く周知はしたが、集まらなかった。今後より良い方法を検討していく。

Ⅲ 文化の振興

Ⅲ-1 文化財の保護と活用

〈領域目標〉 先人の築いた文化財の保護・活用

1 現状と課題

本町には、町の成り立ちや先人の足跡を知る上で欠かすことのできない遺跡や伝統芸能など貴重な文化財が数多くあります。

町では文化財の調査や指定を進めるほか、無形民俗文化財の伝承活動の奨励・支援、埋蔵文化財包蔵地の保護・調査や、民俗資料の収集・保護に努めてきました。

また、歴史民俗資料館での収集資料の公開展示やイベントの開催、歴史講座などを通じて、町の歴史や文化財に対する町民の理解と関心を高めてきましたが、さらに食文化体験など様々な事業を展開しながら文化情報発信施設として進める必要があります。

伝統芸能は、少子高齢化や若者の流出などの後継者不足と、さらにコロナ禍による活動自粛が活動停滞に拍車をかけましたが、徐々に伝承活動が戻りつつあり、郷土芸能祭の開催などを通じて発表の場を提供し、広く町民の参加と理解を得ながら、活動の継続支援と保護に努めていく必要があります。

明治以降の近現代史は、記録保存が不十分であり、資料等が散逸し記憶に残っている高齢者も少なくなっていることから早急に調査を進め、計画的に記録保存する必要があります。

先人が営々と築き上げてきた文化遺産である文化財を、将来にわたって保存・活用・継承していくためには、町民が町の歴史や文化に触れ合える機会を増やし、郷土に対する関心を高めていくことが重要です。

2 目指す姿

郷土に残る文化財の保護や管理を適切に行うとともに、継承や活用を進め、その魅力を町内外に発信することで、本町の魅力や誇りを高めていくことを目指します。

〈具現化するための取組〉

■取組項目 1：文化財などの指定・保護・活用

□具現化の取組 1

文化財指定などのほか、調査及び記録保存に努めます。

進捗状況	① 指定文化財等のパトロールを行った。 ② 石碑の補足調査を行った。
評価	① 指定文化財及び指定候補文化財の状況が良好な状態であることを確認できた。 ② 町内にある石碑の全体把握がされつつある。

□具現化の取組 2

文化財の保存と活用に努めます。

進捗状況	旧家にある文化財保存のため、所有者との連絡調整を図った。
評価	所有者との文化財保護についての認識を共有できた。

□具現化の取組 3

埋蔵文化財の現況を調査するとともに、保護に努めます。

進捗状況	開発行為との調整を図り、工事立会等を行った。
評価	開発行為を調整したことにより、埋蔵文化財の保護を図ることができた。

□具現化の取組 4

歴史民俗資料館の展示を充実させて開館し、さらなる郷土理解の推進と郷土の魅力情報発信の場として活用を強化します。

進捗状況	① 企画展や雑穀に関する料理教室、龍ちゃんもみじアムまつりを開催することができた。 ② 近現代史調査で町内外の関係者から聞き取り調査をすることができた。
評価	① 様々なイベントの開催を通じて、龍ちゃんもみじアムに足を運んでもらうことができた。 ② 貴重な情報を聞き取ることができ、記録を残すことができた。

■取組項目 2：民俗芸能の保存・伝承

□具現化の取組 1

中野七頭舞など、先人から受け継がれてきた民俗芸能の保存・伝承に努めます。

進捗状況	郷土芸能団体に伝承活動の発表できる機会の提供を行った。
評価	発表の機会を通じて、伝承活動の重要性を再認識するとともに、芸能への自信にもつながった。

□具現化の取組 2

町民などの鑑賞機会及び発表の機会を提供するため、郷土芸能祭を開催します。

[カッコ内：6年度数値]

進捗状況	郷土芸能祭を町民会館で開催することができた。
進捗補足	岩泉会場：7団体、290人 [岩泉会場：5団体、200人]
評価	町民等に郷土芸能の鑑賞機会、郷土芸能団体にとっては、伝承活動を発表する機会を提供することができた。昨年度の意見等を踏まえ、開催時期を見直して開催したが、想定した団体の出演がかなわなかったことから、さらなる打診が必要である。

□具現化の取組 3

郷土芸能伝承のため、関係団体を支援・育成します。

[カッコ内: 6 年度数値]

進捗状況	① 郷土芸能団体に、活動運営費の支援を行った。 ② 活動を休止した団体が見られた。
進捗補足	① 8 件、400 千円 [8 件、354 千円]
評価	① 活動費補助により、各団体を支援することができた。 ② 活動再開した団体が若干見られたが、昨年に続き活動を休止している団体があり、活動再開が危惧される。

□具現化の取組 4

無形民俗文化財の南部牛追唄の普及を図るため、認定団体と連携した活動を推進します。

進捗状況	南部牛追唄の発表会の活動支援を行った。
評価	南部牛追唄保存会の活動は定期的に行われており、発表会の再開なども視野に入れながら連携して普及活動を進めていく必要がある。

■取組項目 3 : 天然記念物等の保護活用

□具現化の取組 1

いわて三陸ジオパークの周知活用を図ります。

進捗状況	いわて三陸ジオパークかわら版の製作協力を行った。
評価	かわら版を通じた周知を図っているが、参加する児童が限定した学校であるため広く周知する必要がある。

□具現化の取組 2

イヌワシ等の天然記念物の保護と活用を図ります。

進捗状況	① イヌワシの生息繁殖状況調査を実施した。 ② 災害復旧工事後の環境調査に係る天然記念物の保護指導を行った。
評価	① 本町におけるイヌワシの状況を把握することができた。 ② 希少動植物の保護を関係機関と連携することにより、調査・保護対応の調整が図られた。

〈第8次岩泉町教育振興基本計画の令和7年度現状値及び最終目標値〉

【郷土芸能団体数】

指 標	単位	現状値 (R 7)	目標値 (R 4)	目標値 (R 7)
郷土芸能団体数	団体	18	18	18

〈点検評価委員等からの主な意見〉

- (16) 郷土芸能祭の観客が少ない。もっと多くの人、特に子どもたちに関心を持ってほしいと思う。PRなどを工夫し、集客を頑張してほしい。

〈今後の課題と対応方向〉

- (16) コロナの影響で出演団体減、観客も減少した。以前は旧村単位で開催していたが、会場の環境を考慮し町民会館での実施とした。担当としてもPRに力を入れなければならないと感じている。

Ⅲ-2 芸術・文化の推進

〈領域目標〉多様な文化活動の推進と情報発信

1 現状と課題

芸術・文化活動、教養や趣味の学習を進めることは、心の豊かさや暮らしに潤いをもたらします。

町では、多様な芸術鑑賞の場の提供や町民文化展を通じ、町民が芸術・文化に触れ合う機会や発表の場を提供するとともに、芸能団体の連絡協議会を立ち上げるなど、文化活動を維持・推進できる環境づくりに努めてきました。

公演事業や町民文化展、合同芸能発表会など、芸術・文化活動については、若者の参加が少なく、高齢化による活動の停滞、指導者不足、後継者不足などが課題となっています。待望の町民有志による町民劇が再開されましたが、継続的な活動になるか危惧されます。

今後も町民が芸術・文化に触れ合える機会や発表の場の確保に努め、豊かな情操を持つ子どもや若者の参加を促し、文化の継承者として育成するほか、各種団体の活動を支援していく必要があります。

2 目指す姿

多様な芸術・文化活動が展開できるよう支援し、次世代を担う若い世代が芸術文化活動に親しむことの出来る場を創出し、芸術と文化のまちづくりを目指します。

〈具現化するための取組〉

■取組項目 1：芸術・文化活動などの推進

□具現化の取組 1

芸術文化事業、公演事業などを開催するほか、近隣市町村の文化ホールと連携しながら、鑑賞機会の提供・拡充に努めます

進捗状況	昨年中止となった岩手芸術祭移動舞台公演「盛岡コメット混声合唱団公演」を開催できた。
進捗補足	観客数：60人
評価	貴重な合唱を聞く機会を企画したが、同日にほかのイベントと重複し観客数が伸び悩んだ。

□具現化の取組 2

町民文化展、合同芸能発表会の開催のほか、町民自らが取り組む芸術・文化事業を支援します。

[カッコ内: 6年度数値]

進捗状況	① 町民文化展では、昨年度に引き続き他団体の協力を得て、「岩泉の工芸家展」に加えて体験会を開催した。 ② 合同芸能発表会を開催することができた。
進捗補足	① 町民文化展 2,564点、1,170人 [2,865点、1,189人]
評価	① 町民文化展では、観るだけでなく体験できるコーナーも開設し、新たな魅力を創出することができた。 ② 出演団体数の減少と高齢化により、開催形態も含めた検討が必要となってきた。

■取組項目 2：芸術・文化団体の育成・支援

□具現化の取組 1

芸術・文化団体の育成と支援に努めます。

進捗状況	各団体の活動促進のため、公共施設の利用を支援した。
評価	① 各団体とも高齢化している状況で、支援方法等を検討する必要がある。 ② 活動活性化のために、団体などへの支援を充実する必要がある。

□具現化の取組 2

学習成果の発表機会を提供します。

進捗状況	① 発表の場となる合同芸能発表会を開催することができた。 ② 講座等で取り組んだ作品を町民文化展で展示することができた。
評価	① 数少ない発表の場を提供することができたが、さらなる文化活動の活性化への支援が求められる。 ② 文化展の作品展示を目標として、学習の意欲向上につながるものであり、今後も継続していく必要がある。

■取組項目 3：芸術・文化施設の整備・充実、及び有効活用

□具現化の取組 1

町民会館の充実及び有効活用を図ります。

進捗状況	移動観覧席の保守点検を行った。
評価	移動観覧席点検により、快適な鑑賞の場を確保することができた。

□具現化の取組 2

生活改善センターなど、既存施設の有効活用を図ります。

進捗状況	生涯学習事業及び住民主体の活動拠点として、各地区の施設を活用した。
評価	住民に身近な施設として、各施設が有効活用された。今後も町民が足を運びやすい環境づくりとして、地区の施設を有効活用することが重要と思われる。

〈第 8 次岩泉町教育振興基本計画の令和 7 年度現状値及び最終目標値〉

【町民会館利用者数等】

指 標	単位	現状値 (R 7)	目標値 (R 4)	目標値 (R 7)
町民会館利用者数	人	42,633	55,000	55,000
社会教育団体（芸能文化活動団体）数	団体	39	55	55

IV スポーツ・レクリエーションの振興

〈領域目標〉 余暇を生かした豊かなスポーツライフの推進

1 現状と課題

スポーツが多様化したことで世代を問わずスポーツを楽しむ人が増え、“健康増進”や“生きがいづくり”だけではなく、家庭や地域のコミュニケーションを深める場としても重要な役割を果たしています。

町では、総合型地域スポーツクラブを創設し、スポーツを行う機会の拡大や高齢者に対する生涯スポーツの普及、スポーツ少年団などによる競技スポーツの振興等に努めてきました。

一方、価値観の多様化、少子化や人口減少などの影響により、競技団体の規模が縮小し、スポーツを選択できる幅が狭まってきています。このため、誰もが参加しやすく、気軽に楽しめる環境を整備し、スポーツ・レクリエーション活動に取り組む人が増加するよう、団体への支援や団体同士の連携推進、既存施設の有効活用などに向けた取組を進めていくことが重要です。

スポーツ施設については、指定管理による良好な施設管理と運営が重要であり、また、老朽化により施設ごとの計画的な修繕が必要となっています。

憩いの場の確保として、芝生化したレクリエーション広場を親子が楽しめるスポットとするため、新たに遊具を設置し、岩泉レクリエーション公園として整備するなど子育て環境の充実を図りました。今後も親子などで親しむ環境づくりに努めていくことが重要です。

2 目指す姿

各団体の支援や連携を推進し、誰もがスポーツを身近に感じ、日常の中で気軽にスポーツを楽しむことができる環境の整備を目指します。

〈具現化するための取組〉

■取組項目1：生涯スポーツの振興

□具現化の取組1

スポーツ推進委員、各地区のリーダー、各種スポーツ指導者の養成と確保に努めます。

進捗状況	県内外のスポーツ推進委員研修会に参加したほか、スポーツ少年団の指導者が、公認指導者資格を新規取得するに際し、町スポーツ少年団本部から一部補助をし、指導者の養成と確保に努めた。 新たな若者の指導者の確保・養成ができなかった。
評価	指導者の確保・養成はどの競技団体でも大きな課題であり、特に若者の指導者確保が必要である。種目別競技団体等、関係団体と連携を密にしながら引き続き対応していく。

□具現化の取組2

スポーツ推進委員協議会自主事業を支援するとともに、関係機関と連携し、年代を問わないスポーツに親しむ機会の提供に努めます。

[カッコ内: 6年度数値]

進捗状況	スポーツ推進委員協議会主催のグラウンド・ゴルフ大会、ソフトバレーボール大会の2大会を支援した。ソフトバレーボール大会は、若者の参加者が多くスポーツに親しむ機会のほか、交流の場にもなった。
進捗補足	参加者：グラウンド・ゴルフ大会 82人 [70人] ソフトバレーボール大会 100人 [67人]
評価	軽スポーツに親しむ機会を提供し、定着してきた参加者もいるほか、新たな参加者も増えた。

□具現化の取組3

グラウンド・ゴルフやネオホッケーなど、誰もが気軽に楽しめる軽スポーツのプログラム提供及び普及に努めます。

進捗状況	① グラウンド・ゴルフ大会、ソフトバレーボール大会ともに参加者が前年度を上回り盛会に開催できた。 ② 出前講座において、軽スポーツの普及を行った。
評価	① グラウンド・ゴルフは高齢者、ソフトバレーボールは青年層と年代に応じた軽スポーツを楽しめる機会を提供できた。 ② 冬に開催していたネオホッケー交流大会は、ネオホッケーの活動をしている社会教育団体が大会開催を進められる体制づくりができ、継承することができた。 ③ ネオホッケー交流大会の代替事業を検討したが、開催に至らず冬の軽スポーツの提供ができなかった。 ④ 出前講座では、親子レクなどで要請があり、軽スポーツの普及がなされた。

□具現化の取組4

スポーツ協会へ生涯スポーツ振興事業を委託することにより、町民の健康増進と青少年の健全育成に努めます。

進捗状況	① 子どもから高齢者まで誰もが参加できるスポーツ教室等を開催した。 ② 19種目のスポーツクラブ教室を開催した。
評価	① 幼児期から高齢者まで、運動に親しむ機会を提供し、健康増進のほか、青少年の健全育成がなされた。 ② 青少年のほか、幼児から高齢者も含めスポーツクラブ教室への参加が増加傾向にある。 ③ スポーツクラブ教室に通っている生徒が、陸上の県の強化選手に選ばれたほか、全国大会や東北大会出場、県大会入賞を果たすなど、競技力の向上が図られた。

□具現化の取組 5

豊かな自然を活用した野外レクリエーションの普及を進めます。

進捗状況	他団体の協力を得ながらツリークライミング体験や川遊びを行った。
評価	自然遊びの楽しさの再確認をする機会の提供ができた。

■取組項目 2：競技スポーツの振興

□具現化の取組 1

スポーツ協会や各種競技団体と連携し、競技力の向上に努めます。[カッコ内：6年度数値]

進捗状況	① 各種目別団体への支援を行った。 ② 県民スポーツ大会に参加する 9 種目105人 [7 種目75人] を支援した。
進捗補足	① 運営費補助団体：21団体 [20団体] ② 県民スポーツ大会及び朝野球県大会参加交付金：492,000円 [400,000円]
評価	競技団体によっては、児童生徒も巻き込んだ活動が行われ、競技人口の増加と競技力の向上に寄与している。

□具現化の取組 2

スポーツ技術の向上や運動機会拡大のため、ロードレース大会や各種教室などを開催します。[カッコ内：6年度数値]

進捗状況	① 水泳大会を開催することにより、日々の学校での水泳授業やスポーツクラブの水泳教室の成果発表の機会を提供した。 ② ロードレース大会は、沿道に多くの応援する人が立ち並び、盛り上がった。また、一般の参加者が増加し、児童生徒のみならず町民の大会として開催ができた。 ③ バドミントン大会は、昨年度に比べ参加者が少なかったが盛会に開催できた。
進捗補足	① 水泳大会：延べ72人 [延べ93人] ② ロードレース大会：222人 [265人] ③ バドミントン大会：延べ178人 [延べ264人]
評価	① 各種大会の開催により、運動機会や練習の成果の発表機会を提供した。 ② 水泳大会の参加者が減少しており、規模縮小も見据えた運営の見直しが必要である。

□具現化の取組 3

指導者の育成を推進し、競技力の向上に努めます。

進捗状況	① 指導者講習会への参加支援を行った。 ② 安全対策のための応急手当講習会などを開催した。
評価	① 指導者としての資質向上に寄与した。 ② スポーツ競技力向上のための人材育成の在り方を考える必要がある。

□具現化の取組 4

種目別団体などの大会誘致・運営などを支援し、交流人口の拡大と町内のスポーツ振興を図ります。

進捗状況	① 軟式野球スポーツフェスティバル2025県予選（いわての牛乳カップ）開催の支援をした。 ② 県還暦軟式野球選手権大会開催の支援をした。
進捗補足	① 出場数：32チーム（うち町内から1チーム出場） 町補助金：300千円 ② 出場数：34チーム 町補助金：300千円
評価	県大会レベルの誘致大会を開催したことにより、町のPRと地域経済の活性化を図ることができた。

■取組項目 3：スポーツ施設の整備

□具現化の取組 1

NPO法人による社会体育施設の指定管理により、利用者の利便性向上と施設の良好な維持管理に努めます。

[カッコ内：6年度数値]

進捗状況	① 施設の利用者会議を開催した。 ② 施設での事故などを想定した職員研修を行った。 ③ 岩泉球場での支障木撤去を行った。
進捗補足	指定管理料：33,316千円 [33,481千円] 対象施設：海洋センター、龍ちゃんドーム、岩泉球場、レクリエーション公園 海洋センター利用：23,484人 [22,596人] 龍ちゃんドーム利用：11,895人 [10,323人] 岩泉球場利用：3,689人 [4,094人]
評価	① 利用者の声を聞き入れるとともに、町民が利用しやすい施設の管理に努めている。 ② 施設の老朽化により、計画的な修繕が必要となっている。

□具現化の取組 2

社会体育施設の維持・補修に努めます。

進捗状況	各施設の小修繕や工事を行った。
評価	修繕により、良好な環境を維持することができた。施設が老朽化していることから、日常の管理をしっかりしていく必要がある。

□具現化の取組 3

学校の体育施設を開放し、スポーツ振興の場として活用します。 [カッコ内: 6年度数値]

進捗状況	スポーツ少年団や各種目別競技団体に対し施設の開放を行った。
進捗捕捉	利用者数：延べ12,837人 [10,804人]
評価	スポーツ活動の場が提供でき、今後も一般開放事業を進める必要がある。

□具現化の取組 4

親子が憩える場の確保に努めます。

進捗状況	① レクリエーション広場に遊具を設置し、レクリエーション公園とした。 ② 指定管理により、芝生の管理をした。
評価	① 親しみやすく親子が楽しめるスポットとするため、新たに遊具を整備し、子育て環境の充実を図った。 ② 良好な芝生管理ができた。

〈第8次岩泉町教育振興基本計画の令和7年度現状値及び最終目標値〉

社会体育団体数等

指 標	単位	現状値 (R 7)	目標値 (R 4)	目標値 (R 7)
社会体育団体数	団体	59	70	70
スポーツ少年団数	団体	5	7	7
県民スポーツ大会参加競技数	競技	9	10	10
県民スポーツ大会参加人数	人	105	175	175

〈点検評価委員等からの主な意見〉

- (17) レクリエーション公園について、岩泉町は公園が少ないためとてもありがたく感じている。現在の利用状況はどうなっているか。
- (18) 部活動とスポーツ協会の関わりについて、各中学校のバスケットボール部がなくなり地域移行しているとの話を聞いた。取組の機会減少や、備品、交通費など費用面の課題もでてくるのではないか。高校はまだ地域移行の話は出ていないが、小中学校の部活動が地域移行していくことにより、子どもたちの部活動に対する認識も変化していくと思われる。こうした変化が、これから高校に進学する子どもにどういった影響を与えるのか、と考えている。

〈今後の課題と対応方向〉

- (17) 詳細な利用者数は把握していないが、平日はこども園が屋外活動で利用し、放課後には小学生も利用している。休日には親子連れの方も利用しているようである。
- (18) 学校、教育委員会、スポーツ協会で部活動検討委員会を設置し、意見交換を行っている。地域移行については、三者で協力して取り組むこととしている。令和7年度、サッカー部が既にモデルとして町のスポーツクラブに移行している。他の競技についてもスポーツ協会と協力し、子どもたちがスポーツと触れ合う機会を十分に確保できるようにしていきたい。

〔生涯学習等に係る主な事業実施状況〕

事業名	事業実施 区 分	令和 7 年度		令和 6 年度		
		事業実施量	金額(千円)	事業実施量	金額(千円)	
生涯 学習	推進本部	本部会議 1 回		本部会議 1 回		
	生涯学習カレンダー	4,500部	569	4,500部	569	
社会 教育	教育振興運動	子どもと地域の未来を 考える集い 73人	143	子どもと地域の未来を 考える集い 98人	187	
	成人式	二十歳のつどい 54人	319	二十歳のつどい 39人	269	
	学びの出前講座	53講座 1,067人		53講座 1,148人		
	国内外研修交流事業	国内研修交流事業（昭 島市交流） 15人 中学生短期派遣事業 （台湾嘉義県） 8人 高校生短期派遣事業 （米国ウィスコンシン 州デルズ市） 8人	9,354	国内研修交流事業（昭 島市交流） 25人 中学生短期派遣事業 （台湾嘉義県） 8人 高校生短期派遣事業 （オーストラリア） 7人	7,361	
	N P O 委 託 事業	家庭教育の支援	家庭教育学級 809人	19,747	家庭教育学級 715人	22,155
		青少年教育の 充実	青少年地域活動（ふる さと少年隊） 延べ144人		青少年地域活動（ふる さと少年隊） 延べ279人 青年講座 延べ21人	
		高齢者教育の 充実	高齢者学級 延べ155人		高齢者学級 延べ343人	
		各地区生涯学 習の充実	パソコン講座 延べ1人 地域支援講座 延べ427人 自然環境講座 延べ91人		パソコン講座 延べ51人 地域支援講座 延べ297人 自然環境講座 延べ73人	
	男女共同参画推進 事業	男女共同参画フェス ティバル動画配信 男女共同参画サポー ター養成 受講なし		男女共同参画フェス ティバル動画配信 男女共同参画サポー ター養成 受講なし		
	花いっぱい運動	花苗配布 72団体 コンクール参加62団体	2,437	花苗配布 77団体 コンクール参加67団体	2,435	
	社会教育施設管理 運営	指定管理 町民会館・図書館	41,187	指定管理 町民会館・図書館	40,299	
	町民会館改修事業	駐車場区画線設置工事	693	工事監理委託 990千円 屋根改修工事 77,550千円 非常用発電機更新工事 8,855千円	87,395	

事業名	事業実施区分		令和 7 年度		令和 6 年度	
			事業実施量	金額(千円)	事業実施量	金額(千円)
芸術文化	郷土芸能祭		岩泉会場 7 団体 290人	402	岩泉会場 5 団体 200人	341
	文化財保存		活動補助 8 件	400	活動補助 8 件	354
	歴史民俗資料館		入館者 1,469人	6,859	入館者 1,842人	7,815
	NPO 委託事業	町民文化展	2,564点 入場者 1,170人		2,865点 入場者 1,189人	
		青少年劇場	本公演鑑賞 319人		本公演鑑賞 344人	
社会体育	ロードレース大会		222人	589	265人	588
	学校体育施設開放		7 校857件 延べ12,837人	699	7 校971件 延べ10,804人	699
	スポ少県大会出場補助		延べ 12チーム	202	延べ 10チーム	184
	各種県大会開催事業補助		軟式野球スポーツフェスティバル2025 県予選、岩手県還暦軟式野球選手権大会	600	全国スポ少軟式野球交流大会県予選	300
	スポ少移動サポート		18人	316	22人	364
	町スポーツ協会事業補助		運営費補助 団体運営費補助21団体	1,462	運営費補助 団体運営費補助20団体	1,323
	社会体育施設管理運営		指定管理(B & G海洋センター、岩泉町屋内多目的運動場、岩泉球場、レクリエーション公園)	33,316	指定管理(B & G海洋センター、岩泉町屋内多目的運動場、岩泉球場、レクリエーション広場)	33,481
	生涯スポーツ振興事業委託		バドミントン大会 延べ178人 各種主催教室19種 (624回) 延べ6,325人 学びの出前講座、共催事業等(6回) 延べ130人	11,977	バドミントン大会 延べ264人 各種主催教室19種 (751回) 延べ7,463人 学びの出前講座、共催事業等(6回) 延べ107人	8,624
	スポーツ推進委員主催事業		会議 1 回 8 人 スポーツ・レクリエーション祭(グラウンド・ゴルフ、ソフトバレーボール) 182人	523	会議 1 回 6 人 スポーツ・レクリエーション祭(グラウンド・ゴルフ、ソフトバレーボール) 137人 ネオホッケー交流大会 小学生29人、一般71人	527
	レクリエーション広場整備事業		一般開放 遊具設置工事、敷砂工事	13,728	一般開放	-

事業名	事業実施 区 分	令和 7 年度		令和 6 年度	
		事業実施量	金額(千円)	事業実施量	金額(千円)
図書館	図書購入	図書 1,117冊	1,934	図書 1,184冊	1,934
	かもしか号巡回	23か所11回 4,389冊	—	24か所11回 5,217冊	—
	分館普及推進	支所分館5か所 1,144冊	—	支所分館5か所 1,340冊	—
	地域文庫	1地区 433冊	—	1地区 447冊	—
	青少年詩よみコンクール	8校 837点 837人	340	9校 1,043点 1,043人	340
	子ども映画会	2か所3回 40人	—	4回 160人	—
	読書普及活動(各種資料展ほか)	1会場 20回	—	1会場 22回	—
	図書リクエストサービス	442件	—	429件	—
	おはなし会(定例)	24回 269人	—	22回 199人	—
	こども読書まつり	1回	—	1回	—
	読書マラソン	エントリー 411人 参加者 392人	60	エントリー 463人 参加者 438人	60
	図書館協議会	—	—	年2回 11人	65
	学校図書室支援活動	17日	—	20日	—

社会教育施設の利用状況

施設名	令和 7 年度	令和 6 年度
	利用状況	利用状況
町民会館	42,633人	43,172人
図書館	5,622人	6,357人
	48,878冊	52,769冊
B & G海洋センター	23,484人	22,596人
岩泉球場	3,689人	4,094人
岩泉町屋内多目的運動場	11,895人	10,323人
大川屋内多目的運動場	1,461人	1,856人
小川屋内多目的運動場	1,808人	1,699人

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

平成 20 年 4 月施行

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。